

EXPOグリーンチャレンジ(案)について

会場内外 CO₂削減の取組みについて

2022年10月4日

2025日本国際博覧会協会
企画局 持続可能性部事業課

3. 目指すべき方向性

本万博における脱炭素・資源循環関連の取組について、以下を目指すべき方向性とする。

（１）先進性／経済性のある技術等の導入による、万博におけるカーボンニュートラルの実現及び2050年のカーボンニュートラル社会の提示

（４）会場内だけでなく会場外も含めた広域エリアを対象とした実証・実装プロジェクトを実施（脱炭素先行地域等の取組との連携）

（２）サーキュラーエコノミーの実現
（需要サイドの技術等導入によるごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロの実現）

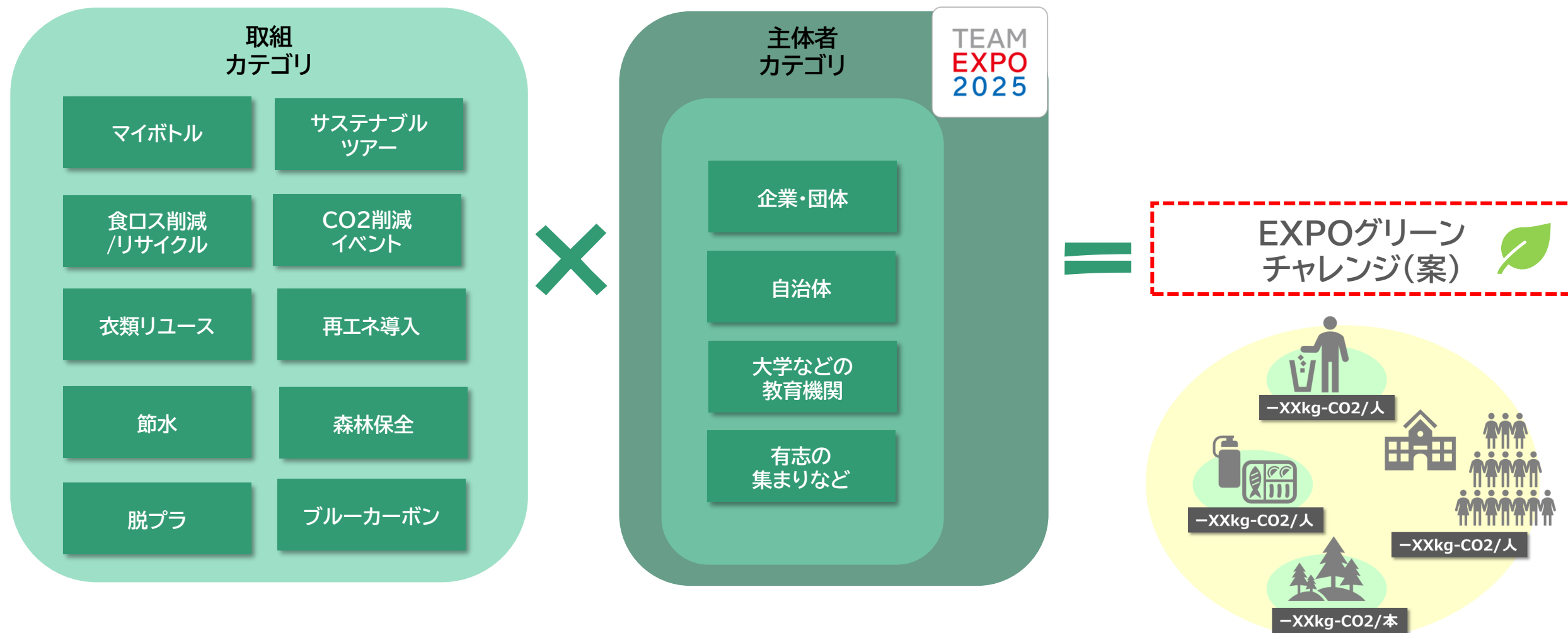
（５）グリーン成長戦略/重点産業分野における需給両面の取組推進（グリーンイノベーション基金等の取組との連携）

（３）来場者等の理解促進を図り、行動変容を起す仕組みの導入

（６）スタートアップ等様々な主体の参加促進

EXPOグリーンチャレンジ(案)

企業や大学有志、TEAM EXPOの集まりなどのさまざまな団体が行う、“万博をきっかけ”としたCO₂削減活動から生まれた削減量をカウントし、集計する。



TEAM EXPO 2025は様々な人たちがチームとなり、多彩なチームと活動で万博とその先の未来に挑む、みんなでつくる参加型プログラム。



○共創チャレンジ

万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」や、SDGsの達成に向けた活動、また万博を広く伝えるものや、未来へのつながりをつくるものなど、自分たちがワクワクする未来のためのアクションを募集。
個人のグループの活動(2人以上)、企業・団体のプロジェクト等を対象。

○共創パートナー

自らのリソースを提供して共創チャレンジを生み出し、また、自らのチャレンジや他のチャレンジを支援する法人・団体。

取り組み例(会期前も含む)

○マイボトルの普及

- 学校内に給水スポットを設置し、全校生徒でマイボトルの常時携帯
- お祭りやイベントでマイボトル持参者へのドリンク販売



○食品ロス削減/リサイクル

- 消費期限・賞味期限の迫る食品や規格外品を情報発信する食ロス削減マッチングサービス
- ビジネスホテルで朝食時に出る生ごみをたい肥化し、たい肥で育てた野菜をホテルで使用



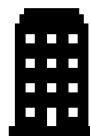
○節水の普及

- 水利用の多い場所でAIカメラを取り入れ、水使用状況の現状把握・分析し水使用の適正化
- 幼稚園や小中学校の児童を対象とした啓蒙活動



○サステナブルツアー

- ホテルのアメニティ削減の呼びかけ
- 旅行の際にオフセットすることの呼びかけ



○ナッジによる行動変容

- ナッジ手法やポイントを活用し、来場者の環境行動を促す



○その他、企業、自治体等からの削減量の寄付

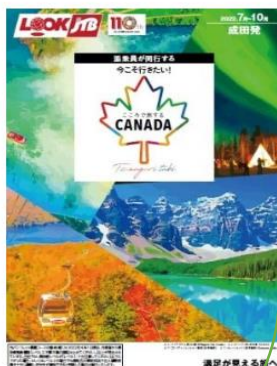
JTBグループでは、学校、法人、個人といったそれぞれの顧客に向けたCO₂ゼロ企画や、旅そのものの持続可能な企画作り、旅を通じたサステナビリティの体験を提供しています。

【事例 1 サステナブルツーリズム】 JTB×カナダ観光局 未来に繋げる新しいカナダの旅

現地の自然や人々の心に触れ、旅を通じて
「未来に向けてできること」を追求

- ① 海洋資源や環境に配慮された漁獲・養殖されたシーフードを使用するレストランの利用
- ② 地域に根付いた食材をストーリーと共に提供する地産地消を推奨するレストランの利用
- ③ その土地を学び敬うことで共感できる先住民族ガイドによる伝統文化学習
- ④ 環境課題に取り組む「グリーン・キー・プログラム※」認証ホテルの利用
- ⑤ 旅行の新しい習慣の提案「カナダの旅にはマイボトル」の推奨
- ⑥ 生態系に配慮したツアーにおける寄付活動
- ⑦ 環境負荷低減を目指す航空会社の利用

※組織全体で持続的に環境に配慮した経営を行う宿泊施設に対する国際的な認証制度



<https://www.jtb.co.jp/operate/information/sdgs/kaigai/canada/index.asp>

【事例 2 可視化&オフセット】CO₂ゼロ修学旅行

修学旅行中に排出するCO₂をグリーン電力の環境価値購入によりゼロに。旅行代金に+αする。予算によりオフセット量を選べる。

※修学旅行はカーボンオフセット旅行と学習教材「SDGsワークショップ ～Decade of Action～」のセット商品。

修学旅行中に排出するCO₂をグリーン電力でゼロに

修学旅行の中でどうしても
発生してしまう
CO₂

資金援助
で貢献

温室効果ガス排出
削減プロジェクト
グリーン電力

修学旅行代金に+α

えらべる3プラン

① 100%OFFプラン	② 50%OFFプラン	③ 10%OFFプラン
例 東京から京都へ修学旅行を実施した場合 2泊3日 / 100名 CO ₂ オフセットにかかる費用 @760円	@520円	@280円
CO ₂ ゼロ修学旅行プログラム参加費（セット料金） @1,860円	@1,620円	@1,380円

※団体旅行専用 CO₂ゼロ旅行@も併せて展開※

大阪府の取組

府域でのCO₂削減量を万博会場でのオフセットに活用

東京オリパラ2020では、東京都のキャップ＆トレード制度（CO₂排出量の削減義務と排出量取引）を活用し、CO₂排出量のオフセットを実施。
同制度は全国規模で展開されておらず、CO₂削減量を万博会場でオフセットに活用できる仕組みの構築を国に要望するなど、オフセット方策について検討中。

万博会場

カーボンニュートラルに向けた行動変容を強く動機づけ

- 事業者の先進的な脱炭素の取組みを国内外に発信
- 会場等で独自の取組みを進め、カーボンニュートラル達成への参加意識を醸成
- 府域でのCO₂削減量を会場でのオフセットに活用
- 会場等での削減効果の見える化とポイント制度の実施

⑥ カーボンニュートラル ～事業者や府民の行動変容～

技術革新だけでは、温室効果ガス(CO₂)排出量の実質ゼロを達成することは困難であり、事業者や府民の行動変容が鍵となる。万博会場での「見える化」の取組みなどを契機に、脱炭素経営、脱炭素行動の定着・浸透をめざす。

テーマ	2022(現状)	2025(万博開催)	2030(万博後のめざす姿)
事業者や府民の行動変容	□行動変容のための取組みの検討と推進 ESG投資の促進策の検討を開始  ▲ESG投資の促進策のイメージ図 大阪版カーボンフットプリント(CO₂排出量の見える化)の検討開始  ▲カーボンフットプリントのイメージ図 会場に設置した製品、サービスの選択を促すポイント制度創設の検討を開始	□行動変容のための取組みの推進 - 府域における脱炭素経営とESG投資の促進 - CO₂排出量の見える化を行う製品の拡大やポイント制度の展開 万博会場 カーボンニュートラルに向けた行動変容を強く動機づけ - 事業者の先進的な脱炭素の取組みを国内外に発信 - 会場等で独自の取組みを進め、カーボンニュートラル達成への参加意識を醸成 - 府域でのCO₂削減量を会場でのオフセットに活用 - 会場等での削減効果の見える化とポイント制度の実施	□大阪の脱炭素経営を世界のモデルに - 事業者によるカーボンニュートラルの取組み強化 - サプライチェーンに連なる広範囲の中小事業者へも脱炭素経営が浸透 - 事業者への資金供給手法としてESG投資が普及 □脱炭素行動の定着 - 日常生活における幅広い製品やサービス等において、CO₂排出量を見える化 - CO₂削減効果の製品表示や価格等への反映が広く普及し、府民による脱炭素に配慮した消費選択行動が浸透

※ESG投資は「環境」の側面だけでなく、社会(Social)・ガバナンス(Governance)要素も考慮した投資
※カーボンフットプリント(CFP)：商品やサービスのライフサイクルの表裏で排出される温室効果ガスの量をCO₂換算に換算して表示する仕組み
※脱炭素経営：脱炭素の考え方を反映させた企業経営

堺市の取組

堺エコライフポイント

環境省「食とくらしの『グリーンライフ・ポイント』推進事業」として、環境配慮行動の実践に対するポイント付与事業を実施。

スマートフォンアプリを新たに導入し、アプリのプッシュ通知機能等を用いて、環境に良い行動を自然にとることができるための働きかけ(ナッジ)を実施。
加えて、市内参加店舗で、対象の環境配慮行動を実践した際に、店舗に設置の二次元コードを読み取ること等で、ポイントを付与します。一定ポイントを貯めることで、プレゼントが当たる抽選に参加可能とする予定。

本日ご紹介いただきます